

オーディオ実験室収載

サブシステムの再構成(13) (HP 収載)

1. はじめに

前報(12)に引き続き、サブシステムの入れ替え後の試聴を行います。

2. サブシステムの再構成の内容

前報(11)の後、ミニシステムや JBL4350A のスーパーツイーターの設置替えを行った結果、全体の配置は写真のとおりです。

今回は、Autograph MINI の試聴を行います。



Autograph MINI

3. サブシステムの再構成の試聴結果

駆動アンプは PX25 を使用し、ベルデンのケーブルで、バナナプラグ経由ムジカライザーに配線し、ムジカライザーからバナナプラグ経由で Autograph MINI に配線します。ムジカライザーのマイナス側の入力のバナナプラグには、10000 μ F の電解コンデンサーを接続するとともにバナナプラグに電磁波吸収テープ NRF-005T を巻きます。

試聴音源は下記のとおりです。

アナログ盤

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

Philips

J.S.Bach ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集

アルトゥール・グリュミヨー(ヴァイオリン)

クリスティーヌ・ジャコッティ(チェンバロ)

STAGE+

バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ

シュロモ・ミンツ(ヴァイオリン)

バッハ Goldberg 変奏曲

ラン・ラン(ピアノ)

シューベルト ピアノ 5 重奏曲「鱒」

リサ・パテシアシュブビリ(ヴァイオリン)他

ミルシュテインのバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、艶がありながら浸透力のある力強いボウイングの様が伝わってきます。もっともタンノイの魅力が発揮される曲と言えます。

バッハのヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集は、ヴァイオリンはタンノイらしい艶のある音ですが、チェンバロの低音に箱鳴りの共鳴音が付きまといます。ミンツのバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、これもミルシュテインのアナログ盤と同様、もっともタンノイの魅力が発揮されており、アナログ盤と比べて、ふくらみが若干後退し、わずかに透明度が上がっている印象です。

バッハの Goldberg 変奏曲は、高域から中域は美しく響きますが、低域はこもりがちになります。

シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」では、ヴァイオリンやヴィオラの領域、ピアノの高域の再生には不満がありませんが、チェロやコントラバスおよびピアノの低域は無理があるようです。

以上、Autograph MINI はキャビネットサイズの限界から、万能とは言えませんが、音源によっては、特異的な魅力を表現してくれます。

なお、試聴終了後、3つのサブシステムへの繋ぎ替えを容易にするため、ムジカライザーからスピーカーへの配線を長めにして、設置場所を替えました。



4. まとめ

サブシステムの入替え後の Autograph MINI の試聴を行いました。当面ムジカライザーML-6を経由した条件で試聴していきますが、スピーカーアキュライザーの追加導入も視野に入れていきます。

以上